

環境教育常任委員会報告

委員長 中植 昭彦

日程 11月17日

場所 伊那市総合観光公園 みはらしファーム

内容 農業振興



観光農業施策

はびろ農業公園みはらしファームの概要説明、また、体験型農業施設 みはらしファーム羽広いちご生産組合の経過と現状について調査を行いました。

みはらしファームについては、伊那市、上伊那農協、伊那市観光株式会社の構成で下部に14の組織を持っています。標高900メートルの高地に位置し、遊歩道も含めると32haの広大な敷地において、温泉、宿泊、食事、そば打ちやおやき作り、草木染め、竹細工のほか、園内の農園では季節によりイチゴやアスパラガス、ブルーベリー、リンゴなどの収穫体験ができます。また季節ごとにイベントがあり、施設全体では年間54万人が来場しており、年間売り上げ約7億円、また、150人の雇用があり、地域振興に寄与しています。

施設の一つ、観光体験型いちご園は、上伊那農協が国の地域農業基盤確立農業構造改善事業の助成を受け整備を行い、羽広いちご生産組合が栽培、管理、運営されています。1棟約11aのハウスが15棟、7家族で構成され、高地特有の気候条件により質が高く、2000年にはNHK、全国農業協同組合中央会の日本農業賞を受賞されました。年間約7万人が来場し、生産量の95%が観光部門で消費され、人気の高さが感じられました。県外より64%の来場があり交流人口の確保にも寄与しています。

鳥獣害対策

伊那市耕地林務課より鳥獣害対策について説明を受けました。

対策状況については、猟友会への支援や体制づくりを行い、ニホンジカ、ニホンザル、イノシシ、ハクビシン、タヌキ、キツネ、アナグマ、テン、カラスを捕獲しております。また、進入防止柵、緩衝帯整備などを推進し、ニホンジカについてはくくりわなの配布も行い被害は減少傾向にあるとのことでした。支援体制としては、国の鳥獣被害防止緊急捕獲対策交付金事業を活用し、猟友会（会員246名）に対し、駆除委託料約960万円、駆除動物一頭毎に捕獲奨励金をつけ総額約1800万円を交付しています。また、狩猟免許、取得、更新時補助も行っています。

新規就農支援施策

農政課より新規就農支援施策について説明を受け、その後支援を受けられて就農したいちご生産組合の太田さんにお話を聞かせていただきました。

取り組みの現状としては、年間150万円が交付される国の新規就農、経営継承総合支援事業を活用し、平成24年度より現在まで準備型は4人、経営開始型は56名の就農があり現在もフォローアップしております。また、就農準備研修、就農先の確保に向けた体制作り、新規就農支援サイトの開設、東京で実施された、新農業人フェア、就農説明会への参加など施策を実施されています。

新規就農者の太田さんのお話では、就農までの経過、思いなど、生の声を聞かせていただきました。

以上が今回の調査内容ですが、本町においても同じような課題があり、解決に向けて大いに参考になりました。今回の調査を踏まえ、内容について更に調査研究を進め、これからの施策提案に活用し、町と議会が両輪で取り組むことが大切だと考えます。